

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

京都大学

前期日程

科目

生物

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年同様、大問数は4題で、そのうちの3題が(A)(B)分けであった。
 論述量は昨年の約700字から約600字へと減少した。
 いずれも基本的な知識問題と無理のない良質の考察問題で、まじめな学習姿勢が点数に反映される良問ばかりであった。

〈特記事項・トピックス〉

京大で頻出の遺伝分野からは、マイクロサテライトおよびX染色体の不活性化の遺伝が出題された。
 記憶に関して、扁桃体が記憶に及ぼす影響を調べた興味深い問題が出題された。

〈合格への学習対策〉

教科書を中心とした丁寧な知識の理解とともに、素直な考察力を養うような学習姿勢が求められている。
 遺伝および遺伝子発現については、さまざまなタイプの十分な演習をしておく必要がある。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
I	記述 選択 論述	生物	(A)細胞, 細胞骨格, 共生説 (B)タンパク質の検出	(A)問1 エは粗面小胞体とゴルジ体の間での輸送方法が問われているので、小胞体ではなく「小胞」と答える。 (B)細胞小器官内のタンパク質と、細胞小器官の膜に埋め込まれているタンパク質の違いを見抜く。	(A)やや易 (B)標準
II	記述 論述	生物	マイクロサテライト X染色体の不活性化	問2 血液細胞ではなく、子に伝わる卵母細胞由来の細胞のみについて考える。 問3・4 リード文にある「減数分裂や初期発生過程でリピートが伸長」をもとに考察する。 問5 子2についてはX染色体の一方が不活性化されることを忘れずに使うこと。	標準
III	選択 論述 記述	生物	(A)植物ホルモン (B)海馬の機能	(A)教科書には記載されていないブラシノステロイドだが、実験からその働きが、明所での胚軸伸長抑制であることが推測できる。 (B)ウエルニッケ野とブローカ野の役割については、聴覚野あるいは運動野と関連することから推測する。	(A)やや易 (B)標準
IV	記述 論述 選択	生物	(A)窒素同化, 窒素固定, 分子系統樹 (B)群れの大きさ	(B)問8 休息時間は群れの大きさに関わらず一定で、競争時間や警戒時間の変化のしかたはAとBで変わらないので、eのグラフの形は変化しない。	(A)やや易 (B)標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。